

氏名	大 崎 和 彦		
学位(専攻分野)	博 士(医 学)		
学位授与番号	博 乙 第 2506 号		
学位授与の日付	平成 4 年12月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)		
学位論文題目	慢性関節リウマチにおける全人工股関節置換術長期成績に関する研究		
論文審査委員	教授 折田 薫三	教授 寺本 滋	教授 太田 善介

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

慢性関節リウマチ (Rheumatoid Arthritis:以下RA) の股関節障害に対する全人工股関節置換術 (Total Hip Replacement:以下THR) の中長期成績についてはほとんど見られない。本研究では1973年から13年間にRA95例125股にTHRを行い、そのうちで直接検診できた62例79股について、5年以上の長期臨床評価、X線学的追跡調査を行った。使用した器種はCharnley型とCharnley-Müller型で、日整会变股症判定基準 (以下JOA score) による臨床評価は、術前32.9点が追跡時57.1点に改善していた。長屋・宇野らの分類を用いたX線学的評価では、clear zoneの出現率は臼蓋側82.2%、大腿骨側53.2%で、loosening (stageIII以上) の発生率は臼蓋側20.2%、大腿骨側32.9%であった。臨床評価、X線学的評価ともにCharnley型の方がCharnley-Müller型より優れていた。寝たきりとなった例は12例あり、その主たる原因は頸椎障害に伴う四肢麻痺であった。合併症は深部感染が4股、大腿骨々折4股、脱臼1股、再置換4股であった。RA患者のTHRにおいては術前・術後管理を十分に行えば、長期に亘って優れたQOLが獲得されるといえる。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本報告は、慢性関節リウマチ (RA) における全人工股関節置換術 (THR) 施行後の長期follow upに関する本邦最初の報告である。過去13年間に行われ、直接検診しえた62例79股について5年以上の長期臨床評価、X線学的検査、THRに使用した機種によるQOLを検討している。Charnley型がCharnley-Müller型よりも優れていること、定期的な術

後のfollow upによりTHRにより除痛効果など高いQOLが長期間えられることを明らかとした。臨床上、価値ある業績であり、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。